

研究紀要

研究主題

思いや考えを伝え学び合う児童の育成

～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～（2/3年次）

研究教科・領域

国語科, 算数科, 海洋教育



気仙沼市立気仙沼小学校

〒988-0073 気仙沼市笹が陣3番1号 TEL 0226(22)6966 Fax 0226(22)6967

Email kesenuma-sho@kesenuma.ed.jp URL <http://www.kesenuma.ed.jp/kesenuma-syou>

あいさつ

AI（人工知能）の飛躍的な進化により人間が行う仕事の半分以上が機械に奪われるという研究論文がマスコミに取り上げられ、人間の仕事、人類の価値はどこにあるのか様々な考えが出されています。AI がどんなに進化し思考できるようになったとしても、その思考の土台を形作るのは人間であり、思考の目的の正しさ、よさを判断したり、再構築したりすることができるのは人間の最大の力なのだと思います。社会の構造的な変化が進む今、これから生きる子どもたちの知識、理解の質を高めることが求められています。

このような中、本校は平成28・29・30年度の3か年にわたり、宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受け、研究実践に取り組んできました。研究初年度にあたる平成28年度を取組を経て、研究2年次となる今年度は、アクティブ・ラーニングの視点に立って授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びを実現することを通して、他者と関わり合いながら学ぶ子どもたちを育成したいと考え、研究実践に取り組んできました。国語科、算数科の教科と海洋教育の領域での授業実践を進める中で、4段階で構成する学習過程の各段階で児童の思いや考えを大切にすること、また、児童の対話的な学びを見取り、その対話の目的（比較、選択、拡大、融合）を明確に押さえながら対応する教師の働き掛けの重要性が明らかになりつつあります。

授業の中で子どもたちが皆で学び合い、知識や経験を共有することで新しい知恵を生み出すという教育活動は、子どもたちの知識、理解の質を高めていくことにつながるのではないかと考え、全教職員一丸となって取り組んでまいりましたが、本校の研究実践はまだ道半ばの感があり、解決すべき課題を多く残しています。本日御参会の皆様より忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いに存じます。

結びになりますが、本研究を推進するに当たり多大な御指導、御助言を賜りました宮城県教育庁義務教育課、宮城県気仙沼教育事務所、気仙沼市教育委員会、並びに各関係機関の皆様に心から御礼を申し上げ、あいさつといたします。

平成29年11月15日

気仙沼市立気仙沼小学校

校長 千葉 清 人

研究紀要・学習指導案 目次

あいさつ

気仙沼市立気仙沼小学校 校長 千葉 清人

I 校内研究の概要 1

- 1 研究主題・副題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究主題・副題の捉え
- 4 研究目標
- 5 研究教科・領域
- 6 研究の視点
- 7 目指す児童の姿
- 8 研究の内容と方法

II 学習指導案

- 【第1学年1組】国語科「いろいろなおはなしをよもう『おとうとねずみチロ』」 11
- 【第6学年1組】国語科「将来の夢や生き方を考えよう『プロフェッショナルたち』」 21
- 【第2学年1組】算数科「新しい計算を考えよう」 29
- 【第5学年2組】算数科「図形の角を調べよう」 39
- 【第3学年2組】社会科（海洋教育）「はたらく人とわたしたちの暮らし」 49
- 【第4学年1組】社会科（海洋教育）「わたしたちの県」 59
- 【第6学年2組】理 科（海洋教育）「水溶液の性質とはたらき」 69

III 専門部の取組

- 1 授業研究部 77
- 2 調査資料部 82
- 3 学習環境部 99

IV 研究の成果と課題 102

資料

研究同人

I 校内研究の概要

1 研究主題・副題

「思いや考えを伝え学び合う児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の教育課題から

これからの社会の担い手である児童が豊かに生きるためには、絶えず変化する社会の中で自ら学び、課題解決のために自ら必要な知識・技能を身に付けていくことや、見方・考え方の異なる他者と協働しながら課題解決していくことが必要である。また、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成することで、新たな価値につなげることも重視していく必要がある。

このことを踏まえて、本研究では次期学習指導要領改訂に向けての答申（平成28年12月21日）に示されたアクティブ・ラーニングの視点に立って授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びを実現することを通して、思いや考えを伝え学び合う児童を育成していきたいと考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「自ら学ぶ意欲にあふれ、心身ともに健康で、心豊かにたくましく生きる児童を育成する」であり、目指す児童像を「確かな学力の定着をめざし、意欲的に学習する子ども（進んで学ぶ子ども）」「自らを律するとともに相手の立場を理解できる子ども（思いやりのある子ども）」「心身ともに健康でたくましく生き抜こうとする子ども（健康な子ども）」と設定している。さらに、「進んで学ぶ子ども」を育成する学校像として「①学ぶ価値を見だし、学ぼうとする学習環境を創る学校 ②主体的・対話的で深い学びのある授業をめざす学校 ③暗唱・読書好きの子どもが多い学校」を掲げ、日々の教育活動を行っている。

本研究において、協働的な授業づくりを通して主体的・対話的で深い学びを実現させていくことが、本校の学校教育目標を具現化する上で有効であると考えた。

(3) 児童の実態から

①全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、国語A問題及び算数A問題（主として知識）における本校児童の正答率は全国平均の正答率を上回る結果となり、前年度までに身に付けるべき知識については概ね身に付いていると判断することができた。国語B問題（主として活用）においても本校児童の正答率は全国平均の正答率を上回った。これまで課題となっていた「目的や意図に応じて必要な内容を整理して書く問題」や「物語文を読み、具体的な叙述を基に自分の考えをまとめる問題」などの記述式の問題においても、全国平均の正答率を大きく上回る結果が得られた。一方、算数B問題（主として活用）では、本校児童の正答率は全国平均の正答率をやや下回った。特に記述式の問題では、どの領域でも全国平均とのかい離が大きくなる傾向が見られた。以上のことから、本校児童には読み取ったことや自分で考えたことを豊かな表現で記述することができるものの、自分の考えを論理的に順序よく書き表すことに課題があることが分かった。

児童質問紙調査によると「最後までやり遂げてうれしかったこと」「自分のよいところ」について、「ある」と回答した児童が全国と比較するとやや少なく、「達成感」や「自己有用感」を実感させるためのさらなる工夫が必要だということが明らかになった。学習については、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること」を難しいと回答

する児童がやや多かった。

②実態調査アンケートの結果について

平成28年6月・11月並びに平成29年6月に実施した実態調査アンケートの結果を分析すると、国語科・算数科の学びの有用性を感じている児童が多く、主体的な学びが実現されてきていることが分かる。海洋教育についてはアンケートを実施する時期と授業実践の時期がずれてしまうことで、学習の有用性を実感する児童の割合が変動する傾向が見られる。短時間でもよいので日常的に海に児童の意識を向ける働き掛けが大切になると考える。

3つの教科・領域に共通して言えることは、本校児童が「目的や意図に応じて説明文や資料の読み取りをすること」「相手に伝わるような話の組み立て方を工夫すること」に苦手意識をもっているということである。このことは、課題解決的な学習過程の中で目的を明確にした対話的な学びを充実させていくことで改善を図ることができると思う。そこで児童が自分なりの思いや考えをもち、それを伝え合い、考えをより深めていく学習過程を重視し、学ぶ意義や達成感を実感させていくようにしたい。

(4) 昨年度までの取組から

平成28年度から宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受け、児童の学力向上を目指して研究に取り組んできた。本校では児童の学びの様子や教師の指導上の課題を受け、研究初年度にあたる平成28年度を「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の実現を目指す1年間と位置付け、平成29年度からは、主体的・対話的で深い学びを通して児童にこれからの時代を生き抜く資質・能力を身に付けさせていくことを目指した。

今年度は児童の実態を受け、課題解決のために思いや考えを他者と伝え合いながら学んでいく力を身に付けさせたいと考え、アクティブ・ラーニングの視点に立った不断の授業改善に努め、4段階で構成する学習過程の中で児童の思いや考えを大切に扱っていくようにする。また、授業以外の学校生活の場面でも、自ら学ぼうとする学習意欲の構築に組織的に取り組んでいくことを目指したいと考えた。

以上4つの観点から本研究主題を設定した。

3 研究主題・副題の捉え

研究主題について	
思いや考え	・児童がもつ疑問や気付き、解決までの見通し。 ・対話等の学習活動を経て新たに生じたり強まったりするもの。
学び合う	・個々の思いや考えを比較したり融合したりして課題解決を目指すこと。

副題について	
主体的	・児童が学習に見通しをもち、課題解決に向けて意欲的に取り組むこと。
対話的	・児童が課題意識をもつ友達や教師などの他者と関わり、自分一人では気付かないような考えに触れたり、自分の思考を深めたりすること。
深い学び	・児童が各教科・領域に関する個別の知識や技能を身に付け、探究的な学びに向き合い、自己の見方・考え方を広げること。 ・学びを基に人間性を高め、社会に働き掛ける行動力を養うこと。

4 研究目標

思いや考えを伝え学び合わせるための指導の在り方を、授業実践・授業改善を通して明らかにする。

5 研究教科・領域

研究教科：国語科・算数科

研究領域：海洋教育（主に理科・社会科・総合的な学習の時間等で実践）

海洋教育は教科・領域の学習のねらいを達成するために積極的に取り入れていくようにする。「海と生きる」を復興スローガンに掲げる気仙沼市において、地域の先人が古くから向き合ってきた「海」を教材として扱いながら学習を展開することは、生涯に渡って学び続けようとする学習意欲の構築と主体的・対話的で深い学びの実現につながると期待できる。

6 研究の視点

思いや考えを伝え学び合う児童の育成に迫るために、国語科・算数科の教科並びに海洋教育の領域において、次の2つの視点に沿った手立てを工夫しながら学習活動を展開する。

【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

ア 「つかむ・見通す」段階における思いや考えをもたせる工夫

イ 「解決する」段階における思いや考えを伝え合わせる工夫

ウ 「確かめる」段階における学びの成果を実感させる工夫

【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

ア 「分かる喜び」を味わわせる習得と活用の場の工夫

イ 「もっと知りたい」を引き出す家庭学習の工夫

7 目指す児童の姿

多様な考えに触れたり共有したりすることで自分の考えを深め、
進んで学び合おうとする児童

国語部	算数部	海洋教育部
課題を自分のこととして捉え、自分の思いや考えを伝えるとともに相手の思いや考えを聞き入れ、自らの考えを広げ深めようとする児童	既習事項を基に課題解決までの見通しをもち、自分の考えを式、図、数直線等を使って表現して他者に分かりやすく説明しようとする児童	海と向き合ってきた地域先人の知恵や工夫、自己の生活経験を学習内容と結び付け、気付いたことや考えたことを筋道立てて伝え学び合う児童

8 研究の内容と方法

(1) 内容

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現を図り、思いや考えを伝え学び合わせるための理論の整理
- ② 研究の視点に基づいた授業研究会の実施と検討
- ③ 学習意欲を継続させる日常的な指導及び学習環境の整備
- ④ 学力の変容についての調査並びに児童の意識調査

(2) 方法

- ① 宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会指定「学力向上研究指定校事業」の支援の下に、学習指導要領をはじめ、文部科学省や国立教育政策研究所等から示されている資料を分析し、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の趣旨や指導内容、方法等についての理解を深めるとともに、講師を招へいして主題に関わる内容の講演や研修を行い、理論研究に関する研究を深める。
- ② 教科・領域部会ごとに協働的に授業づくりに努め、授業研究会を行う。模擬授業や事前授業、授業改善アンケートを活用した事後検討会を実施し、学校全体で授業改善に努める。
- ③ 好ましい学習習慣の形成、知識・技能の習得、学習意欲の継続を組織的に図っていく。また、業前の時間に実施する「スキルタイム」、放課後に算数の四則計算の補充学習を行う「わくわくタイム」の充実を図り、児童の学習意欲の向上を図っていくようにする。
- ④ 全国学力・学習状況調査並びに教研式標準学力検査（CRT-Ⅱ）の結果の分析と考察を行う。また、児童の学び方の様子の変容を捉えるとともに意識調査を年度内に2回実施し、結果を分析する。

(3) 研究構想図（別紙1）

(4) 学習過程のイメージ図（別紙2）

(5) 対話的な学びのモデル図（別紙3）

(6) 研究組織（別紙4）

(7) 検証計画

- ① 6月から11月の間に教科・領域部会で授業研究会を行う。
（指導案検討、模擬授業、事前授業、事後検討会も適宜行う。）
- ② 各部の検討会ごとに成果と課題を明確にし、次の授業研究会につなげる。
- ③ 6月と12月に児童対象の意識調査の分析を行い、研究の検証の資料とする。
- ④ 全国学力・学習状況調査、教研式標準学力検査（CRT-Ⅱ）の結果から研究の検証を行う。
- ⑤ 児童の対話の様子、ノートへの記述、発言やつぶやきの内容を累積したり、写真や動画で学びの様子を撮影して累積したりすることで、児童の学びの様子の変容を検証する。
- ⑥ 職員対象の授業改善アンケートを年度内に3回行い、研究の検証の資料とする。

(8) 研究計画（別紙5）

別紙 1 (研究構想図)

学校教育目標

自ら学ぶ意欲にあふれ、心身ともに健康で、豊かにたくましく生きる児童を育成する

(知) 進んで学ぶ子ども

(徳) 思いやりのある子ども

(体) 健康な子ども

研究主題・副題

思いや考えを伝え学び合う児童の育成

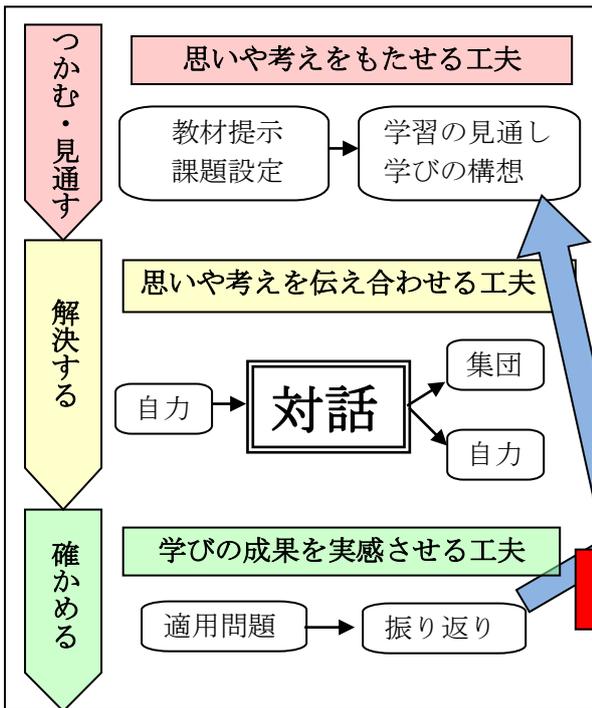
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

目指す児童の姿

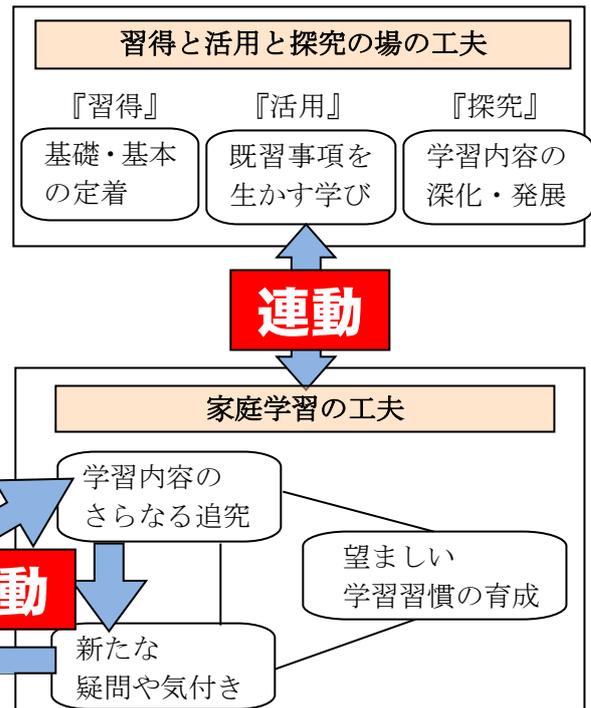
多様な考えに触れたり共有したりすることで自分の考えを深め、進んで学び合おうとする児童

校内研究

視点1 授業改善



視点2 学習意欲の構築



- <協働的な授業づくり>
- 学習過程基本型の作成と活用
 - 部会ごとの授業研究会

- <対話スキルの育成>
- 対話的な学びのモデルの作成と活用
 - 教室等の掲示物の充実

- <課外学習の充実>
- 業前スキルタイム
 - 放課後学習支援
 - 業間暗唱チャレンジの実施

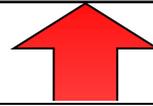
- <家庭との連携>
- はなまるカード (学びの記録)
 - 家庭学習の啓発
 - 学校HPの活用

学力向上に向けた土台づくり

別紙2 (学習過程のイメージ図)

段 階	○学習活動のねらい ・ 具体的な発問や指示	児童の活動と反応例												
つかむ	<p style="text-align: center;"><学習課題をつかませる場面></p> <p>○問題場面・状況を把握し、情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何がどうなるお話ですか。 ・何を求めればよいのですか。 ・このような体験をしたことがありますか。 <p>○本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は何ができるようになればいいんだろう。 ・昨日の勉強との違いはどこだろう。 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ア 思いや考えをもつ</p> <p>似ている場面に登校中にみたことがあるよ。</p> <p>昨日の勉強とは〇〇が違ってんだね。</p> <p>こんな順番で考えていけばできそうだな。</p> <p>昨日勉強したことが使えるかもしれない!</p>												
見通す	<p style="text-align: center;"><見通しをもたせる場面></p> <p>○既習の知識・技能や日常生活での体験・経験を学習課題に関連付け、解決方法や答えの見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この行動はこれまでのお話に出てきたかな。 ・答えの大きさはどのくらいかな。 ・どんな方法で確かめたらいいだろうか。 ・〇〇君、昨日のノートの振り返りをみんなにも紹介してください。 													
解決する	<p style="text-align: center;"><自力解決の場></p> <p>○自分の考えをノートに自由に表現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かったところまで書こう。 ・できるだけ分かりやすく説明する準備しよう。 <p style="text-align: center;"><集団解決の場></p> <p>○目的に応じた対話的な学びを通して、見方・考え方を広げたり、深めたりする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">【対話の目的】</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">『比較』</td> <td style="text-align: center;">『選択』</td> <td style="text-align: center;">『拡大』</td> <td style="text-align: center;">『融合』</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・より早く正確に計算できる考えを選びましょう。 ・三人の考えを一つにまとめて発表してください。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">【学びを深めるために】</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">『全体での共有へ』</td> <td style="text-align: center;">『再び個の学びへ』</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすればより簡単に答えを出せるのですか。 ・自分の考えに足りなかったことを書き足しましょう。 	【対話の目的】				『比較』	『選択』	『拡大』	『融合』	【学びを深めるために】		『全体での共有へ』	『再び個の学びへ』	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">イ 思いや考えを伝え合う</p> <p>ぼくはこう考えたけど、みんなはどう考えたのかな。</p> <p>ここまでではできたんだけど、続きはどうしたらいいかな?</p> <p>〇〇さんの考え方が分かりやすいね。</p> <p>そうか、ここでつまづいていたんだ。</p>
【対話の目的】														
『比較』	『選択』	『拡大』	『融合』											
【学びを深めるために】														
『全体での共有へ』	『再び個の学びへ』													
確かめる	<p style="text-align: center;"><適用問題・振り返りの場></p> <p>○まとめ (新たな見方や考え方) を生かして適用問題に取り組む。</p> <p>○本時の学習課題、課題解決までの見通しに対して、「どのように学んだか」、「何ができるようになったか」について振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに着目して読み取りをしましたか。 ・今日の勉強を通して何ができるようになりましたか。 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ウ 成果を実感する</p> <p>友達の考えを聞いて自分の考えが深まった。</p> <p>今日は〇〇ができるようになった!</p>												

深い学びの実現



見方や考え方の
広がりや深まり

対話的な学び

- <自己の見方や考え方>
- ・課題解決までの見通し
 - ・疑問や気づき
 - ・知識や技能

拡大<考えを広げる学び合い>

- レベル3… 友達の思いや考えを受けて自分の考えや学び方がどう変容したかを発言できる。
- レベル2… 友達の思いや考えを受け止め、自分の考えを広げたり深めたりする。
- レベル1… 友達の考えを聞いて自分とは異なる見方や考え方があることに気付く。

融合<考えをまとめる学び合い>

- レベル3… 互いの思いを反映させた新たな考えを一つにまとめ、根拠を明確にしながらか発言できる。
- レベル2… 複数の考えを学習課題と照らし合わせながらまとめる。
- レベル1… 互いの考えの優れている点に着目しながら聞き合う。

比較<自他の考えを比べる学び合い>

- レベル3… 友達の発言を受けて自分の考えや記述内容を改善することができる。
- レベル2… 友達の発言や記述内容に対して共感したり質問したりする。
- レベル1… 自他の考えや記述内容を聞き、共通点や相違点を見いだす。

選択<適切な考えを選ぶ学び合い>

- レベル3… 適切と判断した考えを、根拠を明確にしながらか発言できる。
- レベル2… より適切だと思う考えを選び、判断した根拠を述べる。
- レベル1… 学習課題を意識して、お互いの考えを聞き合う。

<聞き手に身に付けさせたい対話スキル>

- レベル4 相手の主張に対して適切な意見を言う。
- レベル3 相手の主張に対して適切な質問をする。
- レベル2 相手の主張に対する感想を言う。
- レベル1 相手の主張の中心を理解する。

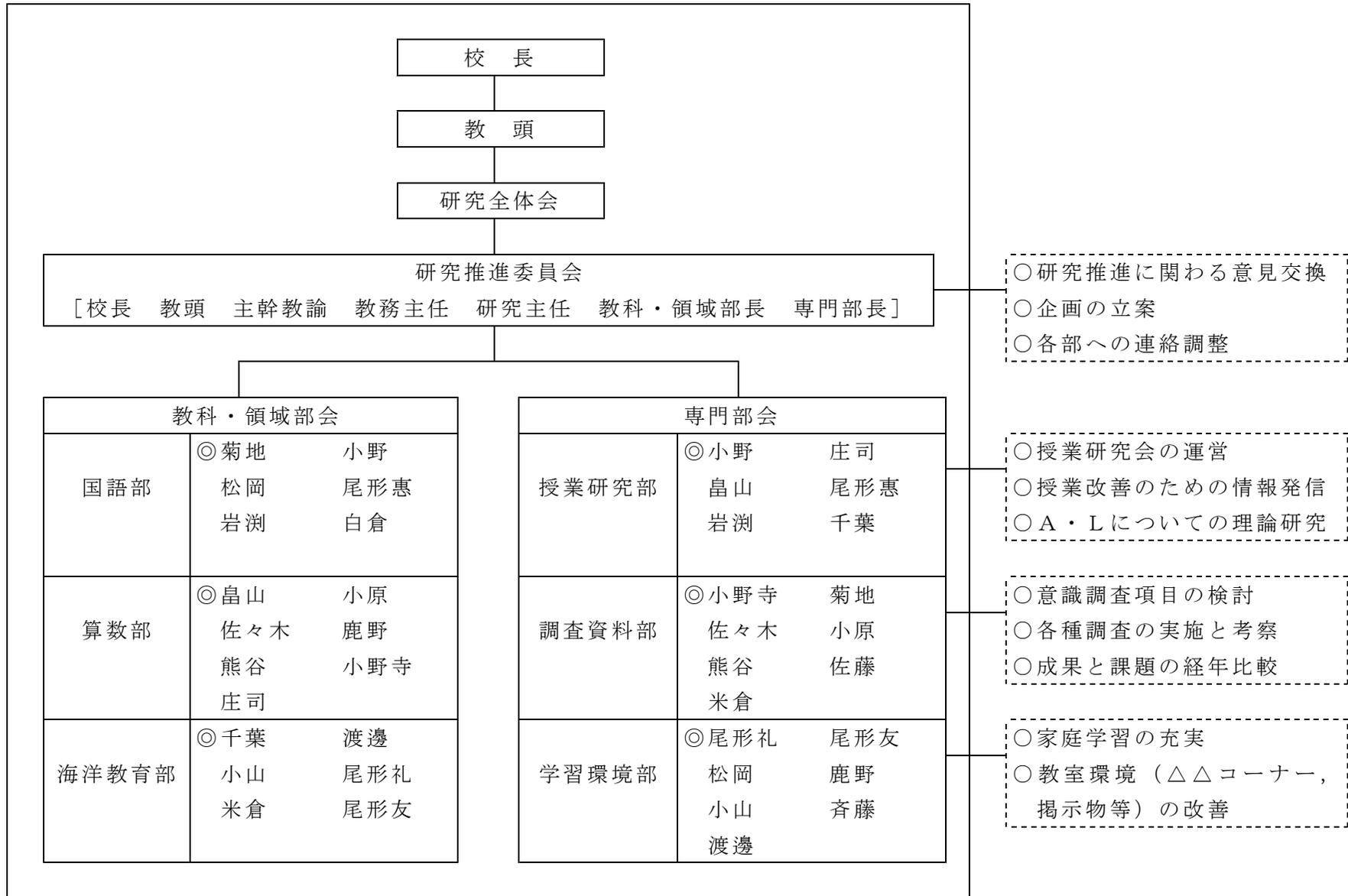
<学びをつなぐポイントと教師の働き掛けの例>

- 予想** 「〇〇さんの考えの続きが分かりますか」
- 再現** 「〇〇さんの考えを隣同士で説明し合しましょう」
- 要約** 「〇〇さんの考えはつまりどういうことですか」
- 着目** 「〇〇さんの考えのよいところはどこですか」
- 推測** 「〇〇さんはどうしてこの考えがうかんだと思いますか」
- 共感** 「〇〇さんの気持ちが分かりますか」
- 補助** 「困っている〇〇さんにヒントを言えますか」

<話し手に身に付けさせたい対話スキル>

- レベル4 自分の考えを根拠を明確にして伝える。
- レベル3 自分の考えを順序立てて伝える。
- レベル2 自分の考えの中心を落とさずに伝える。
- レベル1 自分の考えを最後まではっきりと伝える。

別紙 4 (研究組織)



別紙 5 (研究計画)

	平成28年度(1年次)	平成29年度(2年次)	平成30年度(3年次)
研究主題	思いや考えを伝え学び合う児童の育成		
副題	～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～		
主な取組	<p>中間公開研究会 (平成29年1月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究主題・副題の設定 ・児童の実態把握 ・指導上の課題の整理 ・研究の方向性の確立 ・研究組織の立ち上げ ○研究の視点に沿った授業実践 ・各部会の授業研究会 ・防災教育, 海洋教育単元開発計画の立案 	<p>中間公開研究会 (平成29年11月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践研究の継続と発展 ・研究主題, 副題の検討 ・研究組織の見直し ・視点に沿った手立ての有効性の検証及び精選 ○授業実践とカリキュラム・マネジメント ・年間指導計画の改善 ・基本的な授業モデル(別紙2・3)の立案 	<p>公開研究会 (平成30年月日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践研究の継続と深化 ・研究主題, 副題の検討 ・研究組織の見直し ・視点に沿った手立ての有効性の検証及び精選 ○授業実践とカリキュラム・マネジメント ・気小スタンダード(仮)の活用と発信
授業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会の実施 ・教科領域部会における重点指導事項の設定 ・事前事後の授業検討会を踏まえた指導上の成果と課題の共有化 ・「A・Lチェックシート」の作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会の実施 ・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案 ・課題解決的な学習課題のイメージ図の作成 ・授業改善アンケート(教師用)の実施と授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会の実施 ・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案 ・部会または全体での授業研究会並びに成果と課題の焦点化 ・気小スタンダード(仮)の活用・反省・改善
調査資料部	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び宮城県学力・学習状況調査の分析 ・結果を踏まえた授業改善案の提案 ○児童の実態調査アンケートの実施と分析 ・今後育成を目指していく資質・能力の焦点化 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び宮城県学力・学習状況調査の分析 ・結果を踏まえた授業改善案の提案 ○教研式標準学力検査(CRT-Ⅱ)の結果の分析と考察 ○児童の実態調査アンケートの実施と分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び宮城県学力・学習状況調査の分析 ・結果を踏まえた授業改善案の提案 ○教研式標準学力検査(CRT-Ⅱ)の結果の分析と考察 ○児童の実態調査アンケートの実施と分析
学習環境部	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習充実のための取組 ・「気小っ子はなまるカード」の改善と活用 ・家庭学習紹介コーナーの設置 ・学習の約束の提案と教室掲示物の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習充実のための取組 ・「気小っ子はなまるカード」の活用 ・対話的な学びのモデル図の作成と活用 ・学習環境の整備(教室掲示・学習の流れ・算数コーナー等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習充実のための取組 ・「気小っ子はなまるカード」の活用 ・気小スタンダード(仮)の作成と活用 ・教材の作成, 充実した教室の運営, 学習意欲向上のための環境整備